

# 平成18年度病虫害発生予察特殊報第3号

平成18年12月13日

発表：福島県病虫害防除所

病虫害名：クロフタモンマダラメイガ *Euzophera batangensis* Caradja  
作物名：ニホンナシ

## 1 発生経過

- (1) 平成18年8月に福島市のナシ「幸水」で、果実内に食入する鱗翅目幼虫が確認された（6園）。果実の被害様相はナシヒメシンクイに類似していたが、幼虫の形態はナシヒメシンクイとは明らかに異なっていた。
- (2) 社団法人 日本植物防疫協会研究所 技術顧問 高木一夫氏に同定を依頼した結果、本県のナシにおいて被害事例のないクロフタモンマダラメイガであることが判明した。
- (3) 果樹研究所における平成18年のシンクイムシ類による被害果率は、約2%であった。被害果から採取した幼虫のうちクロフタモンマダラメイガの割合は1.5%であり、ほとんどがナシヒメシンクイであった。

## 2 他県での発生状況

本種は主にカキ、クリの枝幹を加害する害虫である。ナシの枝幹部での被害は、平成11年に三重県、平成14年に愛知県、平成18年に神奈川県で、また、果実では平成18年に愛媛県で確認されている。青森県では、リンゴで加害が確認されている。

## 3 形態及び生態

- (1) 老熟幼虫は体長13mm前後であり、頭部は茶褐色、体は淡褐色をしている。
- (2) 成虫は開長15mm前後、体は暗紫褐色で前翅中央に灰褐色の波状の横帯が2本ある。また、下唇鬚は上方に牙状に曲がり頭頂を超える。
- (3) 発生は関東以西では年に4回、南東北では3回発生する。
- (4) 幼虫は枝幹の樹皮下に侵入して、形成層を食害する。
- (5) 加害された果実はナシヒメシンクイと同様に虫糞を排出する。幼虫は、粗皮下や樹皮の割れ目などに白い繭を作り越冬する。

## 4 発生状況

- (1) 本種に加害された果実は、果頂部から虫糞を排出することが多い。
- (2) 幼虫は枝幹部の粗皮がひび割れした部位にも寄生し、木質部は黒変する。

## 5 当面の対策

- (1) 被害果実は、水漬け等により適切に処分する。
- (2) 枝幹上で虫糞が出ている部位は、粗皮削りを行い幼虫・蛹を捕殺する。



写真1 クロフタモンマダラメイガの被害果 写真2 クロフタモンマダラメイガの成虫